

三河地震から80年、 大規模地震へ備えよう！



三河地震で倒壊した寺院(写真提供: 原田三郎)



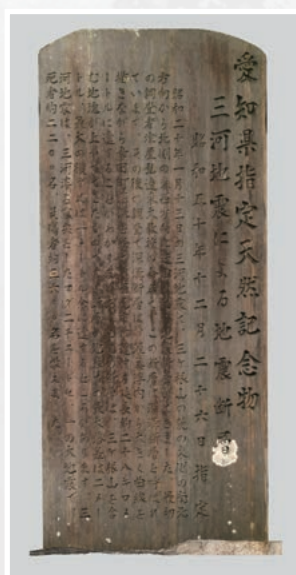
三河地震時の炊き出しの様子(写真提供: 原田三郎)



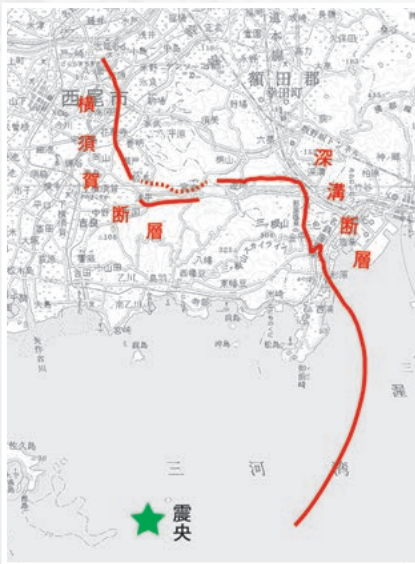
昭和20年頃の深溝断層

三河地震とは？

今から80年前の昭和20年1月13日、三河地方に大きな被害をもたらした大地震が発生しました。それが、皆さんご存じの三河地震です。三河湾沖を震源地とするこの地震は、被害の状況から、マグニチュード6・8、最高震度7と報告されています。この地震は断層の南側が隆起（逆断層）し、さらに右に横ずれして起きたもので、隆起や地割れが各地で起こりました。この地震を起こした断層が深溝断層や横須賀断層です。さて、深溝断層のうち、幸田町市場区内（深溝字小井文字30番地1）において断層が明瞭に確認できる地域が「愛知県指定天然記念物 三河地震による地震断層」として、文化財に指定されています。指定の理由は、断層そのものに、学術・防災・地学教育上、計り知れない意義があるというものでした。断層の入り口に建てられている石碑は、地震が起きた事実が風化しないように、そして、県民共有の財産として次世代に残していこう、という思いを込めて建てられたものです。



天然記念物指定の記念碑



深溝断層・横須賀断層の位置

三河地震は「隠された地震」「救援があまりなかった」と言われることが多いのです。太平洋戦争中に自国の不利になることを「隠す」のは当然のことであり、震災直後に東京帝国大学などの研究機関や新聞社が地震について調査を行い、戦後には、その結果を論文として公開しています。また、地域によって程度の差こそあれ、災害時の復興支援もしっかりと行われています。戦後、復興を優先する世の中で、わざわざ三河地震を「検証」する必要もなく、また、伊勢湾台風などの大規模災害が起きる中で、自然と、三河地震に関する情報が忘れ去られてしまったのでしよう。

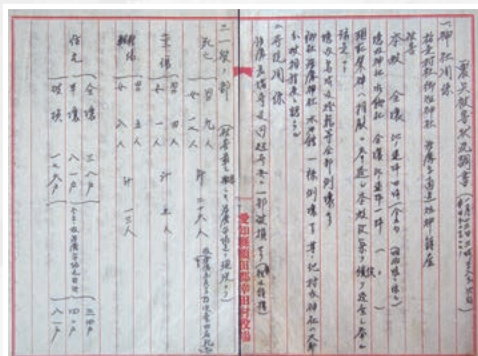
さて、深溝断層がある幸田町の被害が一番大きかったと思う人もいるかもしれませんが、実は、三河地震で一番被害を受けたのは、西尾市から碧南市にかけての地域でした。この地域は軟質地盤であるため、震央から発生した地震の力が伝わりやすかったのです。一方で幸田町（当時は幸田村と豊坂村）は山に

囲まれており、地盤が岩盤であったため地震の力が伝わりにくく、碧海地方ほど被害が大きくありませんでした。それでも、地域によって被害の差はありました。

平成8年に幸田町が作成した『三河地震レポート』に掲載されている三河地震震度分布図では、山間部と平野部で、明らかな色の違い（揺れの強弱）があることが判ると思います。地盤によってこれだけの違いが発生します。



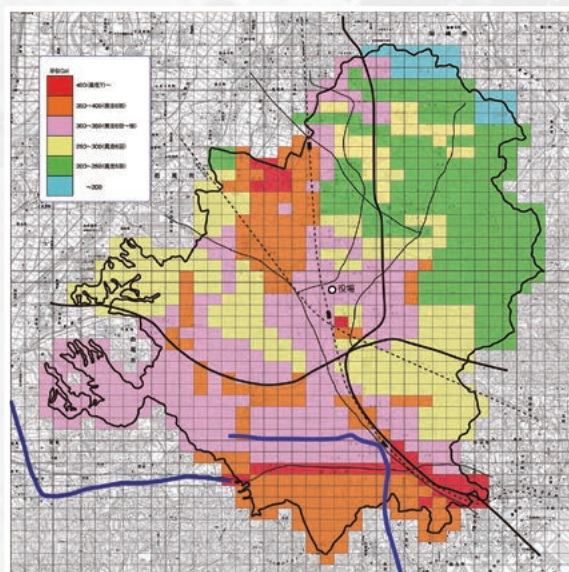
発掘で見つかった、三河地震で倒壊した本光寺の石垣



役場に残る震災時の調査書

このように、過去の地震の被害やその時の対策を知ること、想定されている南海トラフ地震に対して「どのような備えが必要なのか」を考える一助となります。

深溝断層についてもっと知りたい人は左記の2次元コードを読み取り、三河地震のパンフレットへお進みください。



『三河地震レポート』で提示された三河地震の際の想定震度分布図

11 住み続けられるまちづくりを

大規模地震への備えとは？

近年、全国各地で大規模な地震が発生しており、8月8日には、南海トラフ地震の想定震源域にある、宮崎県日向灘でマグニチュード7・1の地震が発生し、令和元年に制度の運用が始まって以来、初めて「南海トラフ地震臨時情報」が発表されました。

この地域で発生が危惧される南海トラフ地震は、約100年から150年の間隔で繰り返し発生していて、昭和の東南海・南海地震からは約80年、安政東海地震からは約170年が経過しています。政府は、『今後30年以内に南海トラフ地震の発生する確率は70％～80％』と警戒を強めています。世界でも有数の地震大国である日本では、1月1日に石川県の能登半島で発生したような直下型の地震も、いつ、どこで発生するかわかりません。大規模地震から大切な命を守るために、日頃から対策をしておきましょう。



まずは住宅の耐震化をしましょう！

能登半島で発生した最大震度7の地震では、多くの建物が倒壊しました。特に、旧基準で建てられた木造住宅（昭和56年5月31日以前の建物）については、地震の揺れで倒壊するなど、甚大な被害を受けており、耐震性が不十分であることが心配されます。命を守るために、耐震性を見直しましょう。

木造住宅無料耐震診断

以下の項目のすべてに該当する場合は、無料でご自宅の耐震診断が受けられます。

- ☐ : 昭和56年5月31日以前に建築された住宅であること
- ☐ : 木造2階建て以下で、在来軸組構法または伝統構法であること
- ☐ : 現に居住しており、就寝する部屋があること

地震に対する強さの目安

震度	5弱	5強	6弱	6強
判定値				
1.3	無被害	無被害	小破	中破
1	無被害	小破	中破	大破
0.7	小破	中破	大破	倒壊
0.4	小破	大破	倒壊	倒壊

無被害	ほぼ無被害
小破	継続使用可・軽微な補修要
中破	多くの場合避難生活 かなりの修復費用が発生
大破	避難生活・修復困難
倒壊	命を落とす危険性大

補助金を活用してご自宅の耐震化を！

判定値が1.0以上であれば大きな地震の際にも概ね倒壊しないとされています。判定値が1.0に満たなかった場合は、1.0以上となるように補助金を活用しながら耐震補強を進めましょう。



耐震改修工事費補助金

判定値を1.0以上に向上させる耐震改修工事費に対し、**最大120万円**を補助します。

命を守る減災化

判定値が0.4以下で、倒壊の危険性がより高い住宅に対しては、耐震改修以外にも補助をしています。

耐震シェルター整備費補助

住宅内に耐震シェルターを整備する費用に**最大30万円**を補助します。シェルター内であれば、大きな地震時にも倒壊せず命は助かります。

除却工事費補助

危険と判定された住宅の除却工事費に**最大30万円**を補助します。耐震改修費用が高額になってしまう場合には、除却して建て替えもご検討ください。



家具の固定などをしましょう！

近年に発生した地震では、約30%～50%の人が家具類の転倒、落下、移動などによってケガをしています。また、家具が倒れたり、ガラスなどが散乱したりすると、自宅での生活が難しくなります。

いざという時に命を守り、避難の妨げとならないよう、家具の配置を見直し、固定しておきましょう。

ご家庭や事業所の家具や書庫などの転倒防止対策をチェックしてみましょう！

チェック欄

■タンス・棚・書庫

- ① 十分な強度がある柱や壁に**字金具**などで固定します。**支え棒**を使用する場合は壁側の位置に設置し、**免震ゴム**を家具手前側に入れるとよいでしょう。
- ② 上段と下段に分かれたキャビネットなどは、つなぎ目を金具で固定します。
- ③ 食器棚や本棚などの扉に**止め金具**を付けるなど収容物の落下や散乱を防ぎましょう。ガラス面には**飛散防止フィルム**を貼ると安全です。

■テレビ

家具の上などには置かず、できるだけ低い位置に置いて固定しましょう。

■階段

チェーンや**金具**でしっかりと固定します。ガラス面には**飛散防止フィルム**を貼ると安全です。

■照明器具

つり下げ式の照明器具については、**チェーン**と**金具**で数か所固定します。また、蛍光灯は、蛍光管の両端を**耐熱性のテープ**で止めておきます。

■冷蔵庫

粘着テープを使用した、転倒防止用の**専用ベルト**が市販されています。また、チェーン等で固定できるような、上側にフックがついている場合があります。

■暖房機器

対震自動消火装置付きの暖房機器を使用し、周囲に燃えやすいものを置かないようにしましょう。

■玄関・ブロック塀

玄関や縁側など、外への避難路となるところは、家具の転倒などでふさがれないよう、配置を工夫します。ブロック塀のあるご家庭は、傾きやひび割れ、破損がないか点検しましょう。

■ピアノ

本体に**ナイロンテープ**などを巻き付け、太めの柱に取り付けた金具に連結し、しっかりと固定します。脚には専用の**すべり止め器具**を付けましょう。

■窓

ガラス面に**飛散防止フィルム**を貼りましょう。

出典：愛知県「迫り来る地震から命を守る、まずは身近なところから！家具や書庫等の固定をしましょう！」



各家庭で必要な物を備蓄しましょう！

食べ物や飲料水などの備蓄品は、家族構成によって必要な物が異なります。災害時には、物資が入手しづらくなり、個々の事情に合ったものが手に入るとは限りません。乳幼児がいる場合は、ミルクや離乳食、そしゃくが困難な人がある場合は、柔らかくて食べやすい物、食物アレルギーがある場合は、アレルギー対応食品などを準備しておきましょう。

防災用の食品は、保存期限が長く便利なものが多いですが、通常の物より値段が高く、いざ使おうと思った時に期限切れになっていることがあります。普段使う食材を多めに買い置きし、使った分を補充する『ローリングストック法』で無理なく準備をしてください。



ローリングストック法の図



出典：「トクする!防災HPより (<https://tokusuru-bosai.jp/stock/stock03.html>)」

問合せ

・防災全般について

・三河地震について

・住宅の耐震化について

防災安全課 安全テラスグループ (内線373) FAX (0564) 63・5139

文化スポーツ課 文化グループ (内線195) FAX (0564) 63・1675
月曜休館(月曜が祝日の場合は翌平日が休館)

都市計画課 計画整備グループ (内線221) FAX (0564) 63・5129